

照蓮寺

何世代にもわたって、この古代寺院は、地元の学者であった頼春水や頼春風の兄弟を含む地元の学者が集まる場所でした。もともとは定林院と呼ばれる禅寺でした。本堂は 1737 年に浄土真宗の仏教様式で再建されました。浄土真宗は、天台宗の元僧侶である親鸞（1173～1263）によって創建された浄土教の学校です。日本で最も広く行われている仏教の分野です。

この寺院は、悪を追い払うと言われている大きな鬼瓦で有名です。正門には龍のレリーフの彫刻があります。

また、駒の鐘で有名な寺院です。銅の鐘は、朝鮮の高麗時代（918–1392）に朝鮮半島で作られました。鐘の高さは 68.3 センチ、直径は 40 センチ、唇の厚さは 3 センチです。日本の重要文化財です。963 年にさかのぼり、日本で最も古い朝鮮鐘の 1 つとなっています。

照蓮寺は日本の重要文化財でもあり、庄木園、多くの重要な芸術作品、頼家の先祖代々の墓があります。